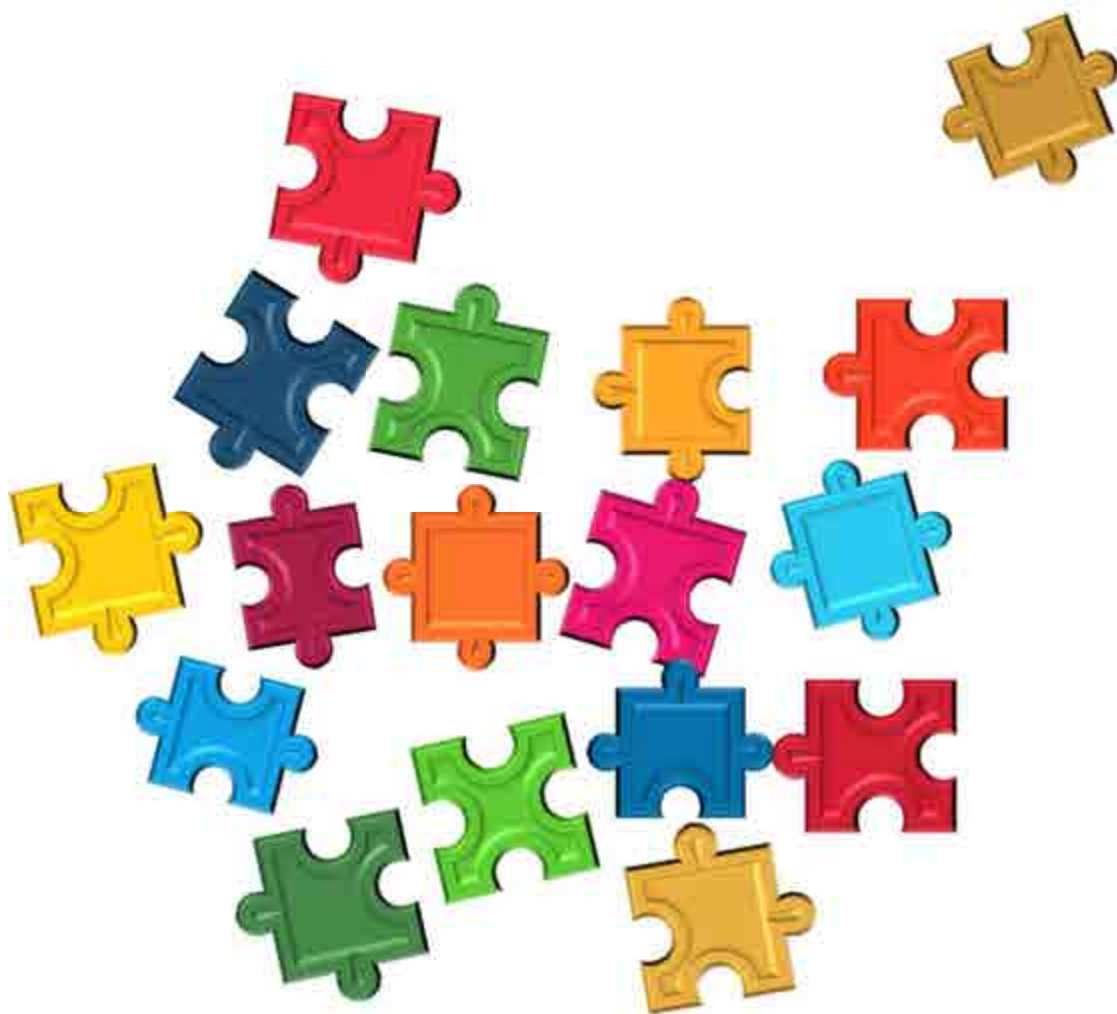


環境経営レポート



SHIRASAGI 白鷺電気工業株式会社

対象期間: 第63期 2018年7月1日～2019年6月30日 発行: 2019年11月25日

Shirasaidenki

目次

会社概要	1
企業使命感・存続6ヶ条 及び 環境経営方針	5
実施体制	6
環境負荷設定と環境経営目標	7
環境経営計画 2018年度【第63期】	8
環境経営計画の実績・取組結果とその評価	9
八代支社・しらさぎエナジーの取組み	11
白鷺電気工業発 SDGs 持続可能な未来へ	12
環境経営履歴 2018.7～2019.6	15
白鷺電気工業 Vision80 -さらに地域と共に歩む-	18
認証・表彰他	21
次年度の環境経営目標及び環境経営計画 2019年度【第64期】	22
環境関連法規への確認及び評価、違反・訴訟	24
代表者による全体の評価と見直し・指示	25

事業者名	白鷺電気工業株式会社
代表者	代表取締役社長 沼田 幸広
所在地	〒861-8035 熊本県熊本市東区御領8丁目3番38号
	八代支社 八代市宮地町1680
	福岡支社 福岡市博多区博多駅中央街8-1 JRJP博多ビル3階
	京都支社 京都市右京区梅津南広町6-1 エスパシオ梅津4-A号
	人吉営業所 人吉市願成寺町1343-1
	鹿児島営業所 鹿児島市西千石町11-21 鹿児島MSビル6階
	水俣営業所 水俣市浜町1丁目2-22
	しらさぎエナジー株式会社 上益城郡益城町小谷2224-8
資本金	1 億円
設立年月	1947年2月
事業内容	電気工事業、土木工事業、とび・土工工事業、鋼構造物工事業、塗装工事業 水道施設工事業、管工事業、電気通信工事業、消防施設工事業、 機械器具設置工事業
従業員数	125名（役員含む、2019.6.30現在） 本社：80名 八代支社：36名 福岡支社：1名 京都支社：5名 人吉営業所：2名 鹿児島営業所：0名（電通ソリューション本部長兼務） 水俣営業所：1名 しらさぎエナジー：0名（白鷺電気社員兼務）
環境管理責任者	安全品質環境管理センター長 上田 浩一
担当者	安全品質環境管理センター 谷本 里恵 松嶋 まゆみ
連絡先	本社 電話：096-380-7171 FAX：096-380-7140 http://www.shirasagidenki.co.jp
認証・登録範囲	本社・八代支社・福岡支社・京都支社 人吉営業所・鹿児島営業所・水俣営業所 しらさぎエナジー株式会社
対象期間	第63期 2018年7月1日～2019年6月30日
発行日	2019年11月25日



でんきで広がる楽しい地球。



しらすぎ 電気エネルギー総合システム

SEESがインフラを支えます

しらすぎ電気エネルギー総合システム(SEES)は、お客様にとって最適なエネルギー環境を実現する、電気エネルギーの総合技術システムです。SEESは、現代社会に必要な電気エネルギー環境をあらゆる角度からサポートする為に、6つの事業から構成されています。発電電、送電工事を主軸に、電気設位の新設・補修工事、太陽光発電などの新エネルギー導入のご提案お客様のニーズに合わせて、各事業が機能的に結びつき、安全で安心できる電気エネルギー環境をご提供いたし、皆様のくらしと産業をサポートします。



■電力プラント事業

発電所で作られた特別高圧の電気を送電するために、鉄塔を建設して送電線を架線する送電工事や、地域の工場・ビル・家庭に電気を送るための変電設備工事を行っています。また、工場の受変電設備工事や官公庁工事など、幅広く電気を安定して供給し、インフラを支える仕事の一翼を担っています。

■情報通信設備サービス事業

社会は高度情報化の上でなりたち、それを支える光ファイバーケーブル工事や無線吉工事、配線工事まで、SEESの確かな技術が貢献しています。優れた技術で最新の情報通信環境のご提案をいたします。

■新電気エネルギー事業

太陽光や風力発電等の新電気エネルギーの導入は、ますます重要となってきました。SEESは高度な技術とネットワークを駆使して、理想的な新電気エネルギーの導入を設計・施工まであらゆるニーズにお応えしていきます。

■でんでんメンテサービス事業

より効率的で安全・安心の電気と電力の事業環境を総合的にサポートします。電気・電力のメンテナンスに限らず、空調、消防設備、ボイラーなど各種設備のメンテナンスもお任せください。

■省エネ・省コストサポート事業

事業所の電力消費環境を総合診断して、理想的な省エネ・省コストをマネジメント致します。無駄を省き、効率的な電力活用で、最適な賞コストプランをご提案調査・分析は無料です。お気軽にご相談ください。

■快適電化サポート事業

キレイ、安全、便利の快適なオール電化をお手伝い、お得な夜間電力利用や優れたエネルギー効率で光熱費も削減。エコキュート、IHクッキングヒータ、床暖房、空調まで、トータルでサポートします。

生き生きと輝き、安心して働ける環境づくり。

社員の心とカラダの健康のために、また安心してイキイキと働ける環境づくりに取り組み、2016年より発足した熊本県の「ブライト企業」に認定されています。また、熊本地震の経験を踏まえ2018年に完成した本社ビルは、災害に強いだけでなく、災害時に緊急対応が必要な社員が安心して働けるよう、また社員の家族も避難できるように設計されています。さらに女性が活躍できる快適な環境、縛りのない自由な発想が生まれるフリーアドレス制やスタンディングデスクの導入、ブレイクタイムのためのカフェコーナー、照明や地中熱を利用した空調・湿度の最適化など、多角的な視点から社員の能力と健康が守られる環境を整えています

■フリーアドレス制の採用

3階執務室の一部にフリーアドレス制を導入しています。個人の席を固定せず、部署や役職に関係なく席を自由に移動してコミュニケーションを活性化。オフィススペースの有効活用を図りながら、個人の書類や私物は個人用ロッカーに収納して机はいつもスッキリと整頓された状態になります。



■執務室のカフェスペース

女性からの要望に答えていた執務室にカフェスペースを設置しています。カフェスペースがあると周りに気兼ねなく休憩が取れ、あるいはデスクを離れてリフレッシュできたりと、ONとOFFの切替えができます。



■全フロアの床をカーペット化

従来のコンクリート床から、床材をカーペットに変更することにより、足への負担軽減を目指しました。ヒールを履く機会が多い女性社員の足のむくみ対策にも、一役買っています。



■集中デスク

仕切りのないオープンスペースの執務室の中には、周りが視界に入らない集中デスクスペースも設けました。コミュニケーションを大切にしながら、集中して仕事の効率を上げたい場合には集中デスクに移動して業務を行っています。



■女子更衣室にパウダールームを設置

女性社員から希望の多かったパウダールームを女子更衣室に設置しました。出勤時や外出時・退社時などに、身だしなみをゆっくり整えることができるようになりました。

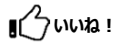


■適切な温度と湿度管理で快適な空間

本社ビルは地中熱利用換気システム(GEOパワースystem)を採用しています。年中一定温度の地中熱を利用するとともに、花粉などの粉塵を除去する、自然環境と人に優しい換気システムです。クリーンで爽やかな環境で、働くことができます。

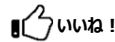


移動棚



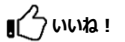
保管・管理に優れていて、作業効率が改善されました。また見える化によって在庫管理・定位置管理も出来るようになりました。

電子黒板



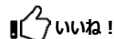
本社支社間でリアルタイムに情報を共有し、テレビ会議で大活躍。また画面を保存・印刷出来るので、紙・時間の削減に効果大。

レターケース



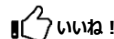
個人用のレターケース設置で、書類の紛失や配布の手間を削減。毎朝ここをチェックすることがルーティンになっています。

ランチスペース



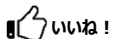
Low-E複層ガラス採用で、夏は涼しく冬は熱を外へ逃がしません。外の景色を見ながらの食事Good！

Shiro CAFÉ



仕事の合間のお気に入り、自分好みにコーヒーをカスタマイズ。ブレイクタイムのためのカフェコーナーです。

作業エリア



ステーションリーやペーパーカッター・ラミネーターなど作業に必要なものを1箇所に集約。探す手間が省け経費も削減できます。

地球環境のために一歩。

本社ビルのZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)への取り組み。

2018年に竣工した新本社ビルは、高性能な省エネ設備と太陽光エネルギーの積極的な活用、オフィスビルでは日本初の直流配電+直流給電照明などの最新のシステムを導入し、小見で75%以上の省エネルギーを達成して、再生可能エネルギーにより年間の一次エネルギー消費量をゼロに近づけた建築物に与えられる、「Nearly ZEB」に認定されました。

■地中熱利用換気システム

温度が地表と比較して安定している地中の熱を空調に利用しています。

夏に涼しく、冬に暖かい地中7.5m付近の熱を利用して事務所の足元や天井から空調の快適環境を実現しています。



■太陽熱利用給湯

太陽光エネルギーは発電だけでなく給湯の熱利用にも用いています。太陽光熱利用給湯システムを導入して、シャワー室やお茶などいつでも熱いお湯が利用できます。節電ばかりでなくCO₂削減にも貢献しています。



■直流電源対応LED照明

社屋には直流電源対応LED照明を導入し、わずかな給電で明るく長時間の点灯が可能です。スマート直流配電ネットワークシステム、太陽光発電、電気自動車用パワーコンディショナ(V2H)を組み合わせ、省エネ・創エネ・蓄エネを行っています。



■Low-E複層ガラスと高断熱壁
ビル内の消費電力を抑えながら快適温度を保つために様々な技術や工法が用いられています。窓はLow-E金属膜をコーティングした複層ガラス“Low-E複層ガラス”を採用して、太陽熱の侵入を防ぎ夏は涼しく、冬は暖房熱を外へ逃がしません。冷暖房効率をアップして大幅に節電します。



■スマート直流配電ネットワークシステム
オフィスビルでは日本で初めて直流380Vで直接給電するスマート直流配電ネットワークシステムを導入しました。太陽光などの再生可能エネルギーの変換ロスを少なくするためにいち早く導入し、ZEB化へ大きく前進しました。



■電気自動車用パワーコンディショナ(V2H)
蓄電池を搭載した電気自動車やプラグインハイブリッド車を、住宅用の蓄電池としても活用するための設備です。停電時も自動車が接続されていれば太陽光発電を利用して自動車内の蓄電池に充電したりすることができます。



企業使命感・存続6ヶ条 及び 環境経営方針

【企業使命感】

くらしと産業の礎をひらく パートナーシステムの
白鷺電気工業

【存続6ヶ条】

- 1 安全 私たちは作業環境の整備を図り、災害ゼロの明るい職場をつくります。
- 2 協調 私たちは相互信頼の精神に立ち、常に相手の立場で考え行動します。
- 3 技術 私たちはいかなる要望にも即応できる技術としくみを開発します。
- 4 啓発 私たちは常に前進を忘れず、昨日よりも今日、今日よりも明日と自分をみがきます。
- 5 システム 私たちは受注から完成、アフターサービスまでよきチームワークでムダ、ムラ、ムリのない相互協力を行います。
- 6 業績 私たちはよい仕事を安く、早く、きれいに仕上げるにより信用・業績を高めます。

【環境経営方針】

我社は、「企業使命感」及び「存続6ヶ条」を使命とし、事業活動において生じる環境への影響を最小限に抑えるために、以下の方針を基に環境マネジメントシステムを構築し、継続的に改善します。

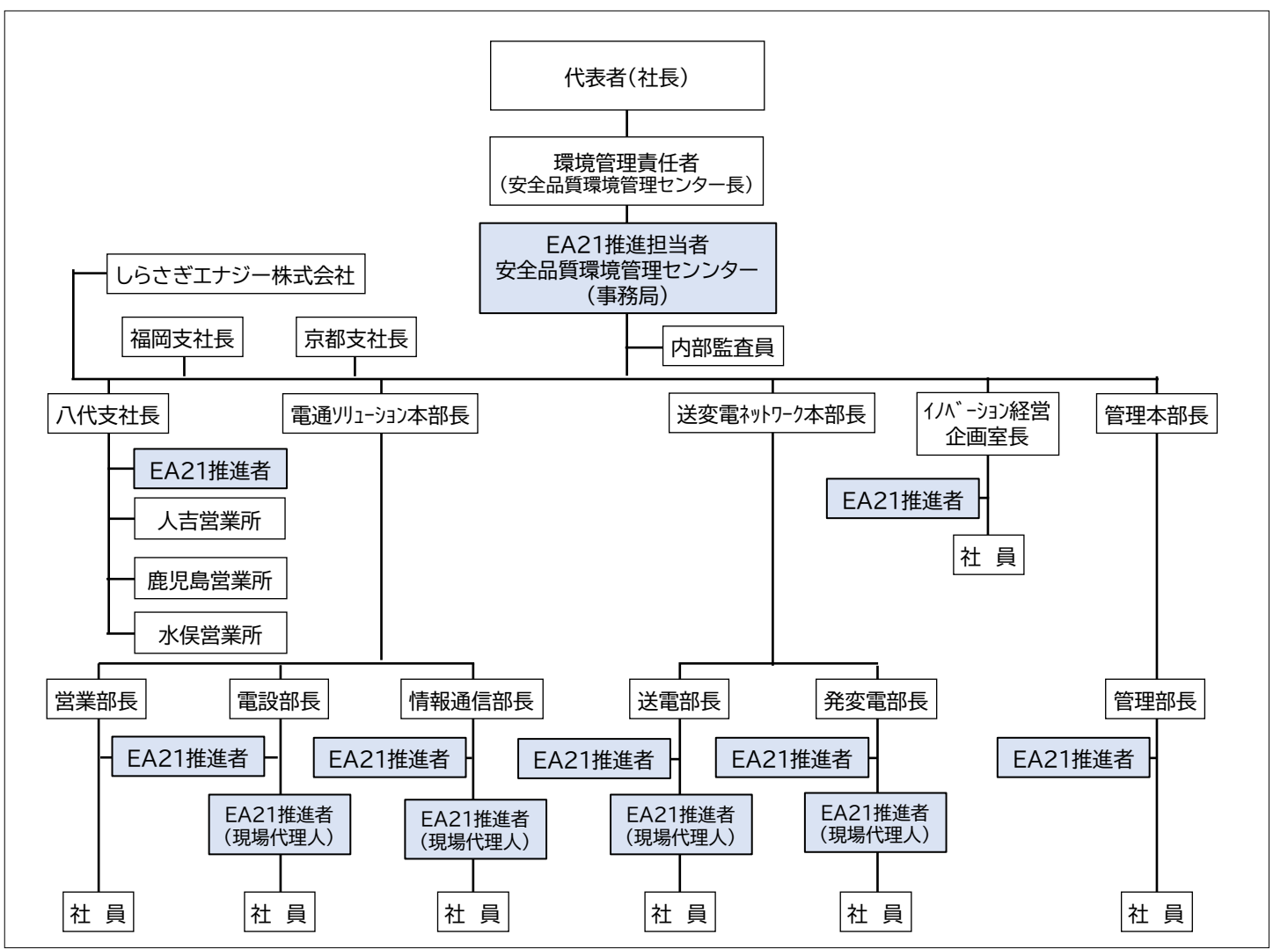
- 1 日常の業務において環境へ与える影響を把握し、技術的・経済的に可能な範囲で次の各項目を環境管理の重点課題として取り組み、環境負荷の低減と汚染の予防に努めます。
 - a. 建設機械及び車両の環境影響の低減
 - b. 事業廃棄物の発生抑制、再利用及びリサイクルの推進
 - c. 省資源・省エネルギーの推進
 - d. 水使用量の削減
 - e. グリーン購入の推進
 - f. 製品・サービスに関する環境配慮
 - g. 化学物質の適正な管理
- 2 我社の事業活動に関わる環境関連の法規制及び、受入れを決めたその他の要求事項を遵守して、継続的に取り組みます。
- 3 この環境方針を全社員に周知し、これを理解し実践できるよう教育活動を推進すると共に、我社の環境保全活動について、ご理解ご支援を頂くために一般の方々にもこの環境方針を含め環境活動レポートを公開します。

制定 2011年12月1日

改訂 2014年 9月1日

白鷺電気工業株式会社
代表取締役社長 沼田 幸広

实施体制



順 位	主な責任と権限
代表者(社長)	環境経営方針の制定と、EA21環境マネジメントシステムの統括 環境管理責任者の任命 取組状況を評価し全般的な見直しの実施及び指示 環境活動への取組を適切に実行するための資源(人・物・金)の準備
環境管理責任者	代表者より委任を受け環境経営システム全体的な構築、運用、維持に関する責任と権限 環境経営計画の策定及び進捗管理を代表者へ報告 環境関連法規のとりまとめと評価及び環境経営レポートの確認と公表
EA21推進担当者 (事務局)	環境経営における事務局としての環境管理責任者の補佐 環境活動における決定事項を社員全般への伝達及び環境活動記録の取りまとめ 環境上の外部コミュニケーション窓口 環境関連法規の取りまとめ及び環境経営レポートの作成、環境管理責任者への報告
EA21推進者	環境経営の事務所における記録と事務局への報告 事務所内におけるエコ活動の推進 一般廃棄物、産業廃棄物の管理と事務局への報告
EA21現場推進者 (現場代理人)	環境経営の現場における記録と事務局への報告 現場内における緊急事態への対応訓練実施と記録及び事務局への報告 一般廃棄物、産業廃棄物の管理と事務局への報告
社員	環境経営方針、環境目標に沿った環境活動の展開 環境活動における改善点の提言

環境負荷設定と環境経営目標

環境負荷設定

項 目		2013年～2015年 の最低値	2013年実績	2014年実績	2015年実績
二酸化炭素 排出量	総 排 出 量	316,197kg-CO ₂	351,872kg-CO ₂	335,543kg-CO ₂	316,197kg-CO ₂
	電 力	87,881kWh	*85,215kWh	90,074kWh	87,881kWh
	ガ ソ リ ン	73,451ℓ	89,575ℓ	82,035ℓ	73,451ℓ
	軽 油	30,411ℓ	31,181ℓ	30,411ℓ	32,244ℓ
	灯 油	3,409ℓ	4,461ℓ	4,539ℓ	3,409ℓ
一 般 廃 棄 物 排 出 量		8,380kg	8,380kg	9,535kg	10,762kg
産 業 廃 棄 物 排 出 量		16,612kg	21,921kg	19,837kg	16,612kg
水 使 用 量		550m ³	*425m ³	550m ³	580m ³
化 学 物 質 購 入 量		316ℓ	1,683ℓ	491ℓ	316ℓ

(注記) *電力は、京都支社を加えた2015年実績を基準とする。

*水使用量は、2012年の10月よりメーターが設置されたため、2014年実績を基準とする。

環境経営目標

*2013年～2015年実績の最低値を基準とし、目標の中期計画を立てた。

区 分	項 目	基準年	3年間の目標		
		2013年～2015年 の最低値	2016年目標	2017年目標	2018年目標
二酸化炭素排出量の削減		316,197kg-CO2	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			313,035kg-CO ₂	309,873kg-CO ₂	306,711kg-CO ₂
	電力の削減	87,881kWh	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			87,002kWh	86,123kWh	85,245kWh
	ガソリンの削減	73,451ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			72,716ℓ	71,982ℓ	71,247ℓ
	軽油の削減	30,411ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			30,107ℓ	29,803ℓ	29,499ℓ
	灯油の削減	3,409ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			3,375ℓ	3,341ℓ	3,307ℓ
一般廃棄物 排出量	一般廃棄物削減 (リサイクル率向上)	8,380kg	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			8,296kg	8,212kg	8,129kg
産業廃棄物 排出量	産業廃棄物削減 (リサイクル率向上)	16,612kg	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			16,446kg	16,280kg	16,114kg
水使用量	水使用量 の削減	550m ³	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			545m ³	539m ³	534m ³
グリーン購入	グリーン購入 の推進	4件	基準年の1種類増加	基準年の2種類増加	基準年の3種類増加
			5件	6件	7件
環境に配慮し た事業活動	社会への啓発 活動の推進	販売・イベント 参加:4件/年	販売・イベント 参加:4件/年	販売・イベント 参加:5件/年	販売・イベント 参加:6件/年
化学物質の 管理	化学物質削減適 切な管理	管理状況の確認	管理状況の確認	管理状況の確認	管理状況の確認
		1回/四半期	1回/四半期	1回/四半期	1回/四半期

(注記) 1. 電気の二酸化炭素排出係数は2015年度九州電力の実排出係数0.598kg-CO₂/kWhを使用する。

2. 化学物質の管理においては、塗料・シンナー・高圧絶縁油などにおいて内容・性質などの把握及びSDSに沿った適切な取扱と管理の実施を行う。

環境経営計画 2018年度【第63期】

No.	項 目		活動の具体的内容	担当部門
1	二酸化炭素	ガソリン・軽油等 燃料使用状況の精度向上	車両管理表への記入徹底を呼びかけ、燃費を管理する	全部門 安全品質環境管理センター
2	環境配慮	省エネ省コスト提案	省エネ関連製品の提案・導入促進	営業部、電設部 イノベーション経営企画室
		環境活動 ボランティア活動の拡大	地域に役立つ社会貢献として熊本城と八代城跡の清掃活動、植林地除草刈り	NPO法人しらさぎ
			マイ・リバー・サポートへの参加	営業部
		クリーンエネルギー事業の活用	太陽光発電所発電事業	営業部・電設部 しらさぎエナジー
3	産業廃棄物	現業部門排出量実態把握	マニフェストの管理と分別収集の徹底	現業部門、間接部門
4	電気・水使用量	電気・水使用管理	使用量の把握と削減	管理本部 安全品質環境管理センター
5	化学物質	SDSに基づく適正管理	倉庫の整理・整頓(化学物質製品の徹底管理)	現業部門 安全品質環境管理センター
6	環境全般	環境教育の充実	教育資料の作成と部会に参加し環境教育を実施する	安全品質環境管理センター
		各事業所単位の環境活動支援	地域ボランティアによる環境配慮	全部門
			グリーン調達推進	管理本部
		EA21取組み	EA21環境教育と意識の向上	全部門
7	SDGs	SDGsの取組み	働きやすい環境作り、また本社移転に伴い書類の保管・廃棄	全部門
			下表参照	全部門

分野	取組内容	取組の対象	ゴール
エネルギー	使用量削減	省エネ、節電	 
	エネルギー転換	燃料電池、再生可能エネルギー	
資源	使用量削減	節約、コピー用紙、電子媒体利用	
廃棄物	発生量削減	一般廃棄物、産業廃棄物	
	3R	再利用	
大気	温室効果ガス、排出量削減	CO ₂ 、フロン、エコドライブ	 
	大気汚染物質、排出量削減	ばい煙 (NO _x , SO _x)、エコドライブ	
水	使用量削減	水道使用量、節水	 
	排水管理	下水道排水、排水処理、水質汚濁防止	
生物多様性	事業所・社有地での生物多様性	緑化、植林、社有林の保全・活用	 
	環境教育	社員教育	
製品・サービス	原材料	グリーン購入	   
	開発	低燃費、節電、環境配慮設計	
	製造工程	省エネ	
雇用	条件	高齢者雇用、出産、育児、介護	   
	環境	ワーク・ライフ・バランス研修制度、働き方改革	
社会・地域	貢献	防災、環境教育、寄付	     
	配慮	景観、騒音、振動、悪臭、緑化	

環境経営計画の実績・取組結果とその評価

環境目標と取組実績(運用期間:2018年7月~2019年6月)

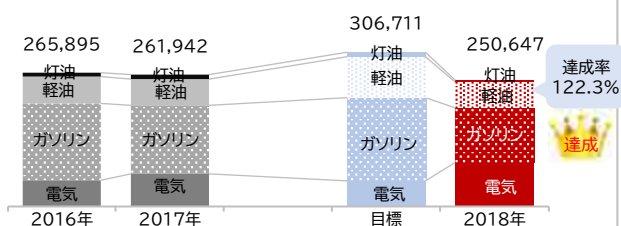
達成 100%以上
60%以上
60%未満

環境経営実績

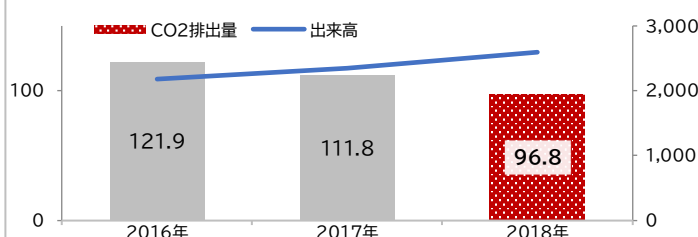
*数値目標は2013年~2015年実績の最低値を基準とし、3%削減を環境目標とした。

項目	基準年 2013年~2015年実績 の最低値	2018年 対象期間			
		目標値	実績	達成度	
CO2総排出量	316,197kg-CO ₂	306,711kg-CO ₂	250,647kg-CO ₂	122.3%	達成
電気使用量	87,881kWh	85,245kWh	147,393kWh	57.8%	達成
ガソリン使用量	73,451ℓ	71,247ℓ	46,705ℓ	152.5%	達成
軽油使用量	30,411ℓ	29,499ℓ	19,433ℓ	151.7%	達成
灯油使用量	3,409ℓ	3,307ℓ	1,530ℓ	216.1%	達成

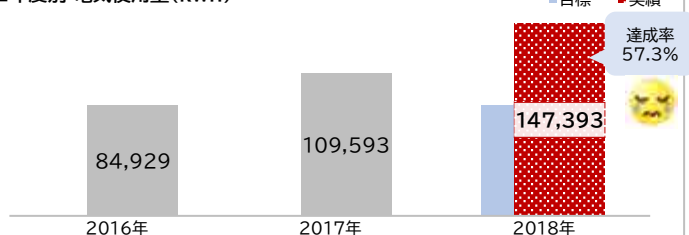
■年度別 CO2排出量(kg-CO₂)



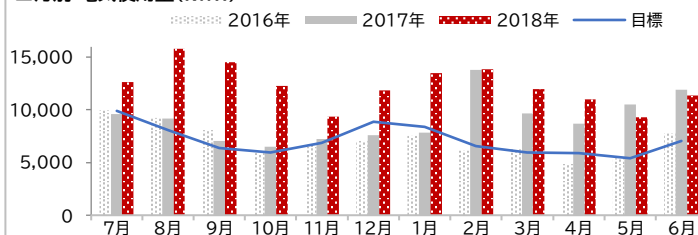
■出来高(百万円)当りのCO2総排出量(kg-CO₂/百万円)



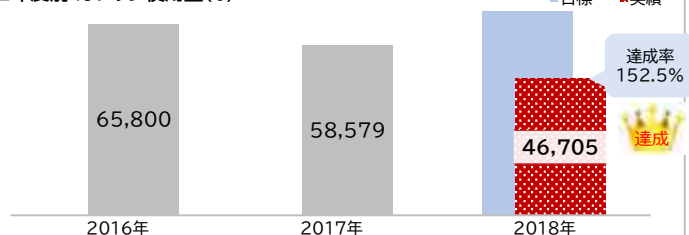
■年度別 電気使用量(kwh)



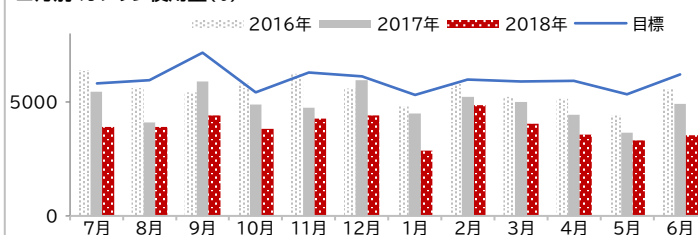
■月別 電気使用量(kwh)



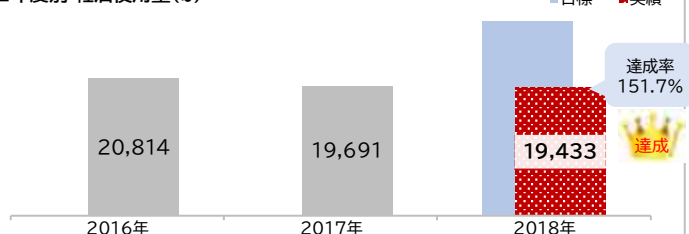
■年度別 ガソリン使用量(ℓ)



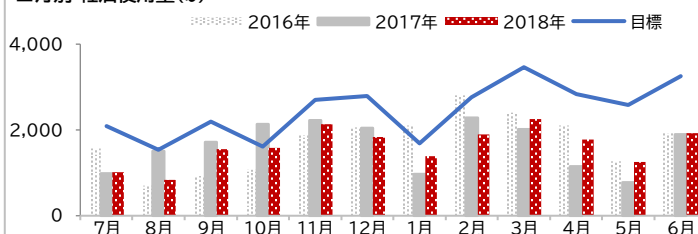
■月別 ガソリン使用量(ℓ)



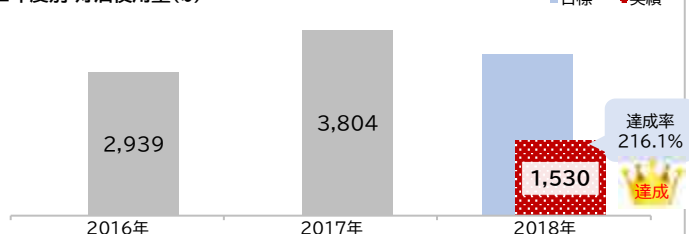
■年度別 軽油使用量(ℓ)



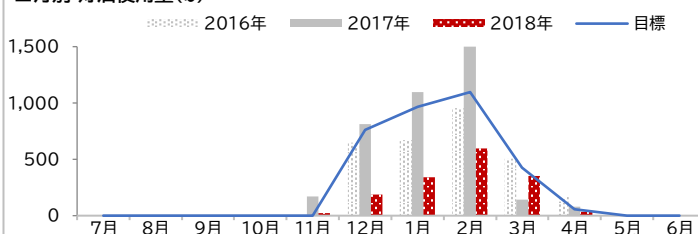
■月別 軽油使用量(ℓ)



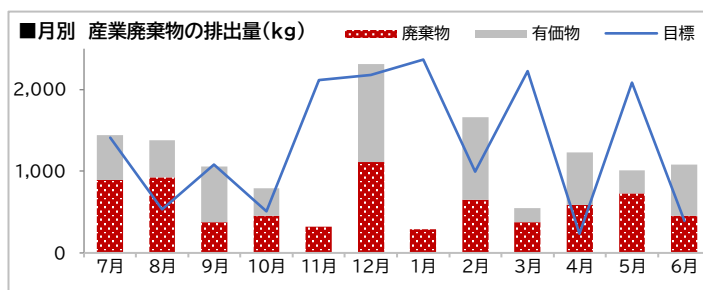
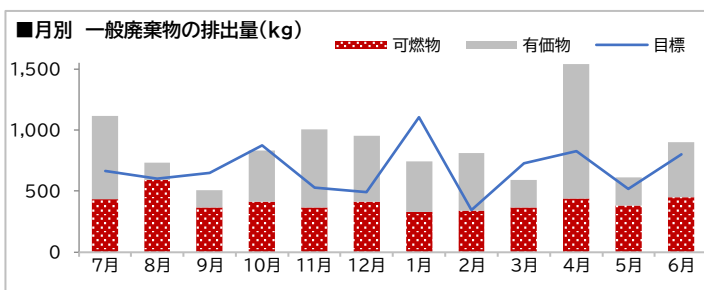
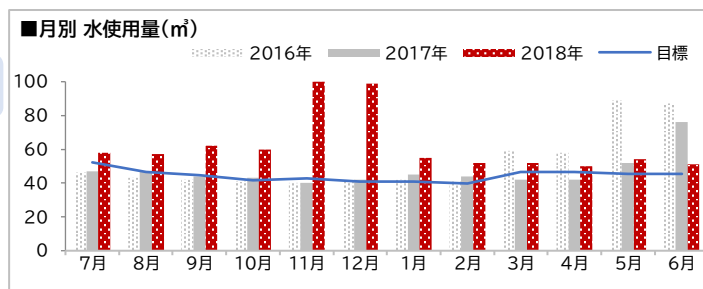
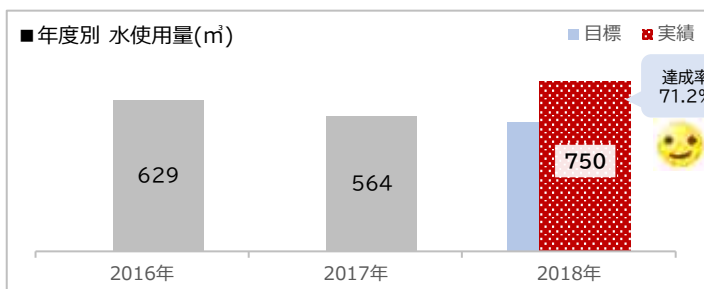
■年度別 灯油使用量(ℓ)



■月別 灯油使用量(ℓ)



項目	基準年 2013年～2015年実績 の最低値	2018年 対象期間			
		目標値	実績	達成度	
水使用量	550m ³	534m ³	750m ³	71.2%	😊
一般廃棄物の排出量	8,380kg	8,129kg	10,324kg	78.7%	😊
産業廃棄物の排出量	16,612kg	16,114kg	13,095kg	123.1%	👏 達成
グリーン購入	4件	7件	6件	85.7%	😊
環境活動に配慮した事業活動	参加:4件/年	参加:6件/年	参加:4件/年	67.7%	😊
化学物質購入実績	316ℓ	—	455ℓ	—	—

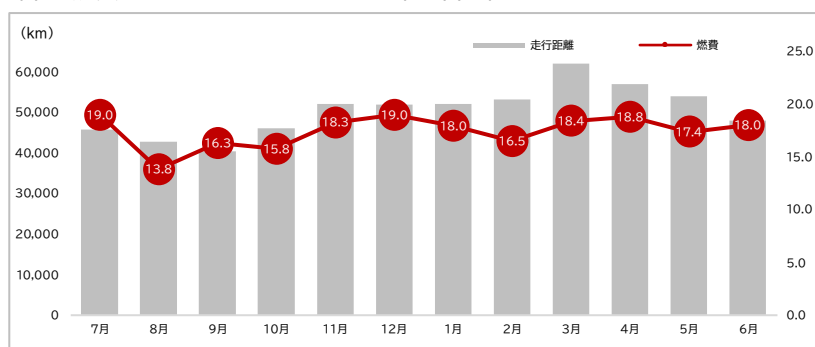


取組結果とその評価

- 電気** 目標達成出来なかったのは、旧本社と新本社の延床面積の違いが大きく、また本社の暖房器具をエアコンに変更したことも要因の一つです。BEMSによって取得したデータを分析し、削減に努めたいと思います。
- ガソリン** 目標達成率が152.5%と高くなりましたが、これは目標を2013年～2015年の最低値としたためで、使用量は年々減少しています。設定した目標に対して状況変化などが生じた場合は、必要に応じて見直したいと思います。
- 軽油** 目標達成率が151.7%となりましたが、これは目標を2013年～2015年の最低値としたためで、軽油の使用量を見ると昨年と殆ど変わりませんでした。ガソリンと同様、必要に応じて目標を見直したいと思います。
- 灯油** 本社においては暖房器具をストーブからエアコンに変更したため、前年の50%程度の使用量となりました。
- 水** 11～12月の使用量が多いのは、石原倉庫駐車場の舗装工事で使用した分が含まれているのが原因で、目標達成率が71.2%と達成することが出来ませんでした。
- 廃棄物** 一般廃棄物については、4月にダンボール梱包分を廃棄したためです。今後は廃棄物を削減するために、3R運動(Reduce)・(Reuse)・(Recycle)を推進していきます。

燃費向上への取組

(平均燃費 17.7km/ℓ ハイブリッド車を含む)



白鷺燃費 No.1 グランプリ

(km/ℓ)

	普通ハコバン部門			軽ワゴン部門		
	部門	号車	燃費	部門	号車	燃費
1	発電電	27	21.63	送電	H005	17.23
2	送電	39	16.59	送電	H004	16.64
3	送電	36	14.79	電設	H008	16.11

環境に優しいエコカー所有台数



ハイブリッド車(HV)	8台
プラグイン・ハイブリッド車(PHV)	2台
電気自動車(EV)	3台
計	13台

52台中
25%

環境と安全に配慮した運転

エンジンプレーキの活用、乗車前に行う車両の点検(タイヤの空気圧チェックによる燃費悪化防止)、アイドリングストップなど環境と安全に配慮した運転を推進しています。毎年、交通事故発生ゼロかつ燃費向上など、社員の意識向上を図っています。

八代支社の取組み

■ 分別ごみ

飲料水の自販機のそばには、分別回収用のバケツを配置し、ごみの分別を徹底しています。社員の分別の意識が高くなりましたが、まだまだと思う事もあり、今後も根気よく声掛けをしていきたいと思っています。



■ 八代支社の照明の取替え
蛍光灯に比べLEDの寿命が約3倍、消費電力についても年間約7,500kwh削減できる事から、蛍光灯からLED照明に取替を実施しました。電気料金でも年間¥165,000程度の経費削減が見込めます。
この取組によって、省エネ化と光熱費削減、また、CO2排出量削減による温暖化対策を図っていきます。



■ 場内及び倉庫の整理整頓
5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)活動は、身の回りの整理、整頓を通じて、仕事のバラツキをなくしたり、品質と生産性を高めるなどの効果があります。
八代支社でも毎月実施される部会時に5S活動を実施しています。ルールを決めて、全社員でしっかり守り、継続していきます。

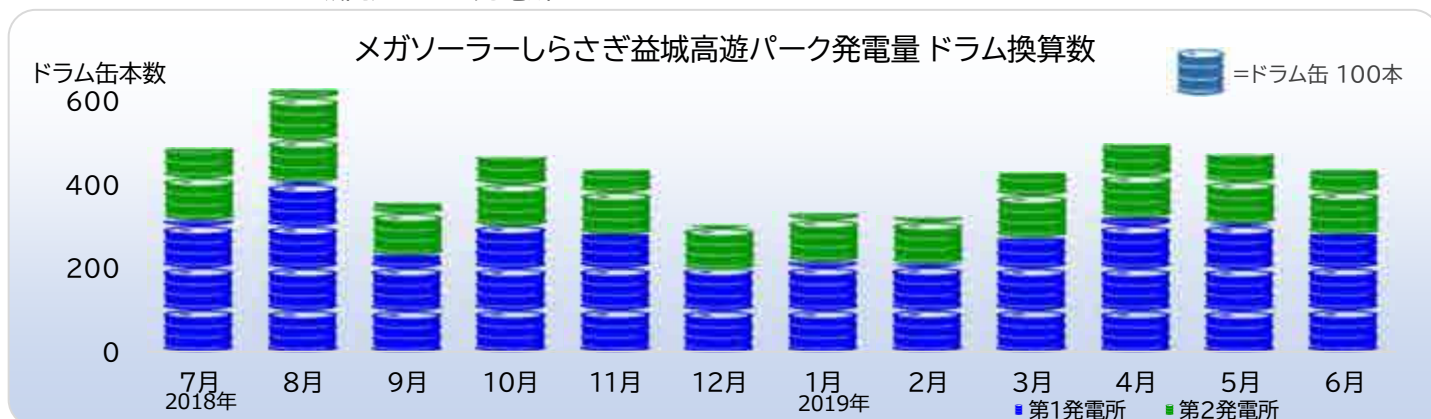


実施推進者
永塘派遣社員



しらさぎエナジーの取組み

■ メガソーラーしらさぎ益城高遊パーク発電所

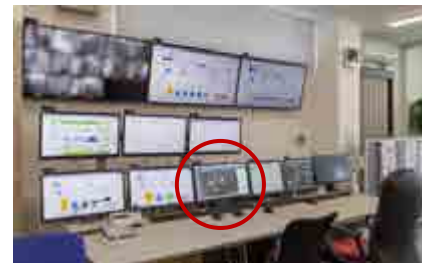


■ 週2～3回の草刈り

約66,000㎡の広大な敷地面積を誇るメガソーラー。
面積が大きいから、周囲の雑草メンテが非常に重要です。特に夏にかけての雑草の生命力は、本当に凄まじく、週2～3回の草刈りでも追いつかないほどです。しらさぎエナジーでは、監視モニターを設置しており、24時間体制で監視を実施しています。このやっかいな雑草もモニターで確認することが出来ます。



監視モニター



監視モニター

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

SDGsは、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスが取れた社会を目指す世界共通の目標として、「誰ひとり取り残さない(No one will be left behind)」という理念のもと、2015年9月に国連で採択されました。

貧困や飢餓、水や保健、教育、医療、言論の自由やジェンダーなど、人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年までに達成するという目標になっていて、17のゴール(目標)とそれぞれの下により具体的な169項目のターゲット(達成基準)があります。

弊社でも、「白鷺電気工業発 SDGs 持続可能な未来へ」と題し、社員全員を巻き込んで取り組んでいきたいと思っています。



その1



ポスターを作成し「SDGs」を周知

■ 認知度を高めるために・・・

SDGsはいま世界が一丸となって取り組んでいる目標とはいえ、残念ながら社員の認知度は決して高いとは言えませんでした。

「この目標をひとりでも多くの人に知ってもらいたい」「目標の達成に向けて行動してもらいたい」という事で、まずこの「SDGs」って知ってる? の掲示から始めました。



年末に頂いた卓上カレンダーを
Reuse



目に留まるようオブジェを作成

その2



■ 「EA21推進委員会」の強化

もともとあった「EA21推進委員会」を強化するため、毎月1回開催される「安全衛生委員会」の終了後、委員を中心に、勉強会を開催しました。



■ 環境省のガイドライン・ツールを活用

「持続可能な開発目標(SDGs)」活用ガイドを参考にして説明し、認知・理解を深めました。



■ 無料の動画サイトの活用

映像と音声を掛け合わせた動画は、文字に比べて「2倍」、人の記憶の中に留まり続けるという事で、動画を活用して学習しました。

その3

■ 身近な取組み「食品ロスを減らす3010運動」

身近な取組みとして、12月27日の忘年会にて初めて「食品ロス3010運動」を実施しました。3010運動は、宴会時の食べ残しを減らすためのキャンペーンです。

環境省HP「3010運動普及啓発用三角柱POP」をダウンロードし、各テーブルに配置しました。

宴会開始時に司会者より、「乾杯後30分間は席を立たずに料理を楽しみましょう、お開き10分前になったら自分の席に戻って再度料理を楽しみましょう」と呼びかけ、一人ひとりが「もったいない」を心がけ楽しく美味しく宴会を楽しみました。宴会後のテーブルには殆ど食べ残しがなくなり、ホテルの担当者からも感謝されました。



2018.12.27 感謝のタベ



「3010運動」実施後



ホテルの担当者から取組みのお礼



その4

■ 身近な取組「書き損じハガキでカンボジア地雷撤去を」

年末には、第2弾として「書き損じハガキでカンボジア地雷撤去を」実施しました。これは書き損じはがきや未使用切手など回収し、その収益でカンボジアの地雷を撤去したり、学校建設や運営の支援に協力するものです。

(財)カンボジア地雷撤去キャンペーン(CMC)によると、書き損じハガキ3枚の換金(約100円)で、1平方メートル分の地雷撤去費がまかなえるそうです。

社内の電子掲示板より社員の皆様へ周知し、協力をお願いしました。

ちょうど年賀状の時期と重なり、はがき158枚、切手3,582円分、テレカ1枚を回収し、CMCへ送付することが出来ました。その後、受領証と感謝のお礼状を頂きました。

初めての試みではありましたが、沢山のご協力を頂きましたので、次年度もこの活動は継続して実施していきたいと思っています。



受領証



その5



エコキャップ
3,440個
集まりました



エコキャップ受領書

■ エコキャップで世界の子供たちにワクチンを

エコキャップ運動は、「ペットボトルのキャップを集めて、世界の子供もたたちにワクチンを届けよう!」という取組みです。キャップを洗う手間が想像以上に大変でしたが、計測の時の達成感と部員の協力でなんとか最後まで頑張ることができました。

ちょっとした作業で参加できる活動なので、ぜひ続けていきたいと思っています。

キャップを分別回収し再資源化を促進することにより、CO2の発生を抑制し地球環境の改善に寄与しています。



■家族も従業員の一人として慰安旅行やイベントに招待

従業員の平均年齢は40.5歳(2019年6月30日現在)と若く、電気や通信などの技術系の人材が活躍できる場所であり、積極的に地域雇用を進めています。電気の取り扱いや高所作業など危険を伴うこともあり、現場では徹底した安全対策を行っています。

健康で安心して働くためには家族のサポートも大切です。入社式にはご両親などを招待して職場を見学してもらい、本人はもちろん家族も安心できるよう努めています。「家族も社員の一員」という考えのもと、家族同伴の「ふれあいの日(慰安旅行)」や「感謝のタベ(忘年会)」等に招待しています。



2017.7.26 創業70周年ふれあいの日



2018.12.26 感謝のタベ



2019.3.30 お花見

その7

■61種の資格取得手当を支給資格取得支援を行い自己の成長へ

自己実現の一環として従業員の資格取得支援にも力を注ぎ、合格者には表彰金や57種の資格ごとに資格手当を支給するなど、従業員の頑張りを成長を応援しています。常に成長と挑戦をモットーに、頑張れば報われる環境も整えています。

『有資格者増加中!!』(2019年6月30日現在)

- | | | |
|-------------------|--------------------------|-----------------------|
| ・第1種電気主任技術者 1名 | ・1級 機械保全技能士 1名 | ・品質管理検定2級 1名 |
| ・第3種電気主任技術者 3名 | ・測量士補 4名 | ・品質管理検定3級 3名 |
| ・1級電気工事施工管理技士 33名 | ・消防設備士 甲類 7名 | ・エコ検定 11名 |
| ・2級電気工事施工管理技士 14名 | ・消防設備士 乙類 6名 | ・日商簿記2級 3名 |
| ・1級土木施工管理技士 8名 | ・工事担任者1種(アナログ・デジタル) 3名 | ・2級建設業経理士 12名 |
| ・2級土木施工管理技士 14名 | ・工事担任者2.3種(アナログ・デジタル) 1名 | ・3級建設業経理事務士 2名 |
| ・2級管工事施工管理技士 8名 | ・工事担任者総合職(AI・DD) 1名 | ・ITパスポート 6名 |
| ・第1種電気工事士 35名 | ・工事担任者2.3種(AI・DD) 4名 | ・ビジネスコンプライアンス検定初級 10名 |
| ・第2種電気工事士 29名 | ・陸上特殊無線技士1級 3名 | ・秘書技能検定準1級 2名 |
| ・監理技術者(電気) 32名 | ・陸上特殊無線技士2級 12名 | ・秘書技能検定2級 6名 |
| ・監理技術者(通信) 3名 | ・危険物取扱 乙類第4類 13名 | |
| ・監理技術者(土木) 7名 | ・第1種衛生管理者 14名 | |



その8

■社内にてインフルエンザの予防接種



2018年11月7日、社内でインフルエンザの予防接種を実施致しました。

これは、2014年11月から実施され、今回で5回目になります。もうすっかりこの季節の恒例行事となりました。

内科の先生及び看護師の方々が会社まで訪問して下さり、事前の呼びかけで30名ほどがワクチンを接種してもらいました。



多くの社員が就業時間中に接種でき、毎年多く助かっています。

「社内や取引先様での感染防止」、「発症を抑える」、「重症化の予防」など社員の健康・体調管理を守り、安心して仕事ができるようにとインフルエンザ予防接種を実施しています。同時に、各所にアルコール消毒液の設置なども行っております。



主な取組

■ 2018.8.4 八代城跡清掃ボランティア



8月4日、毎年恒例の八代城跡清掃ボランティアを実施しました。八代へお盆の時期に帰省される方々に、少しでも綺麗な八代城跡を見てもらおうということで始まったこの活動も、今年で18回目となりました。今回の参加者は総勢174名。全国的な猛暑の中で熱中症発症を大変心配しましたが、曇天のせいもあってか無事に作業を終了することができました。今年も八代城跡歴史講話「八代城跡の被災と保存修復」と題しての歴史講話があり、再発見がありました。

■ 2018.10.13 南阿蘇下草刈りボランティア



10月13日9時より、ヤマグリ・ヤマザクラ・ヤマモミジ等を植林した南阿蘇村造林地0.32haで下草刈りを実施しました。秋晴れの心地良い環境の下、社員とその家族総勢45名で2時間程度の作業を実施しました。

今回は安全リスクに配慮して、仮払機を使用するA班と手鎌で樹木周りの草を刈るB班を上部側と下部側に分けて作業を実施しました。植林した樹木も大きく育ち、誤切断などもなく、また慣れもあり手際よく、予定よりも早く終わることができました。

■ 2019.6.1 熊本城清掃ボランティア



前回は、平成30年7月豪雨の影響で中止となりましたが、2年ぶりに6月1日、県立第一高校近くの坪井川沿いの石垣と桜の馬場城彩苑前の公園清掃ボランティアを実施しました。

当日は、県内の企業・団体の方々をはじめとする総勢約210名が参加し、高所作業の技術を活かしロープで石垣からぶらさがったり、梯子を使って除草作業を行いました。

■ 2019.6.22 南阿蘇下草刈りボランティア



6月22日、ヤマグリ・ヤマザクラ・ヤマモミジ等の広葉樹を植樹した南阿蘇村造成地で下草刈りを実施しました。社員とその家族総勢51名で仮払機と鎌を使い2時間程で終了しました。

昼食は、今年も社員特製『愛情たっぷり豚汁』を、参加者全員で頂きました。

訓練

■ 2018.11.1 「熊本シェイクアウト」訓練



今年で5回目となるこの訓練は、放送を合図に、地震の発生を想定して、職場や家庭などその場でできる「1分間」の訓練です。どこでも、誰でも、手軽にできる地震の防災訓練です。

＊地震発生時の安全行動とは、「姿勢を低くする」→「頭や身体を守る」→「揺れが収まるまで動かず待つ」

■ 2018.11.1 「鉄塔上作業員救助合同訓練」参加



九電ハイテック、八代市消防署、弊社の三社実施による鉄塔上作業員救助合同訓練が実施されました。

作業員が鉄塔上部での作業中に突然意識を失い、一刻も早い救出が必要な状況を想定して訓練が行われ、弊社は現場からの緊急連絡、塔上でのレスキュー隊の補助などの訓練に取り組みました。今後もこのような訓練へ参加して、緊急時の対応に備えていきたいと思っています。

■ 2018.11.17 消防訓練



新社屋において、初めての消防訓練を実施しました。火災受信機の発報後、館内一斉放送があり、火元発生場所の周知がありました。誘導員による指示で全員無事に避難することが出来ました。

安全教育

■ 2018.8.22 安全総点検



第30回安全総点検を8月22日に開催しました。安全教育研修会も兼ね、社員115名、協力会社29社153名、他得意先も含め総勢276名の研修会となりました。

施工事例紹介、協力会社の「現場の安全」、熊本東警察署の「交通安全講話」、防災士の「もしもに備える」などいろいろな角度から安全について考える一日となりました。

終了後のアンケートによると、92%の方が、「とても参考になった・参考になった」との回答を頂きました。

安全運転のために

■ 通信型ドライブレコーダーの活用で事故ゼロを目指します



2018.11.9 テレマティクス説明会



ICカードリーダーの取付け



乗車時に免許証をICカードリーダーへタッチ

どういう運転が事故に繋がりそうか、危険運転の挙動やヒヤリハットが起こった地点などが可視化されるため、データをもとに事故防止に役立ちます。安全運転への意識づけと運転スキルの向上で、事故ゼロを目指したいと思います。

通信型ドライブレコーダーの機能だけではなく、日頃からエンジンブレーキの活用、乗車前に行う車両の点検(タイヤの空気圧チェックによる燃費悪化防止)、アイドリングストップなどを行い、環境と安全に配慮した運転に心掛けています。

■ZEB社屋見学

2018年2月に竣工した新本社ビル。ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)では、地中熱利用換気システムやオフィスビルでは日本初となるスマート直流配電ネットワークシステムを導入し、国内外の沢山の方々が視察を兼ね見学のため来社されました。多目的ホールでの担当者による概要の説明後、新本社の見どころポイントを中心に社内を紹介しました。見学者数は今期347名、2018年2月の竣工時から含めると570名のご見学者がありました。ご来社ありがとうございました。

*社屋の見学を随時受け付けています。お気軽にお声かけください。

見学者数 570名
ご見学
ありがとうございました



BCPの取組み

■電力・通信インフラ復旧の本部として、災害時に強い施設を。

熊本地震の際は「非常時災害対策本部」を独自に設置して、電力・通信インフラの災害復旧拠点の一つとして役割を果たしました。その経験を踏まえ新本社ビルではさらに災害に強いビルを目指し、建物に座屈拘束ブレース(耐震材)を導入して耐震性を高めて、最高ランクの耐震等級3に相当。非常用発電機や非常食、災害用簡易ベッド等を常備して災害に備え、従業員はもとよりその家族の避難所ともなるビルです。



耐震最高等級3相当の災害に強いビル



非常用電源



災害用簡易ベッド

災害が発生したときに従業員の安全を守るためには、事前の備えが必要不可欠です。弊社では、従業員が施設内に留まることができるよう、各拠点に従業員一人当たり3日分の防災備蓄品準備しています。備蓄品は、「備蓄品管理表」にて在庫管理し、定期的に賞味期限・使用期限等のチェック等を行っています。また、地震・災害・インフラ障害などの発生時に社員・家族の安否確認や事業所の被災確認の初動を速やかに把握できるよう、「安否確認サービス」も取り入れています。

主な備蓄品リスト

- ・毛布、アルミブランケット
- ・袋式トイレ
- ・食事(アルファ米、クラッカー、パン)
- ・飲料水
- ・救急用品(薬、マスク、包帯など)
- ・AED、応急処置ハンドブック
- ・布担架、
- ・発電機、懐中電灯、ラジオ
- ・炊き出しステーション
- ・ダンボールベッド
- ・その他



階段下備品収納庫

品名	単位	数量	場所	備考
アルミブランケット	枚	100	1F 会議室	
袋式トイレ	個	50	2F 会議室	
アルファ米	袋	30	3F 会議室	
クラッカー	袋	30	3F 会議室	
パン	袋	30	3F 会議室	
飲料水	箱	10	4F 会議室	
救急用品	箱	5	5F 会議室	
AED	台	1	6F 会議室	
応急処置ハンドブック	冊	1	7F 会議室	
布担架	個	1	8F 会議室	
発電機	台	1	9F 会議室	
懐中電灯	個	10	10F 会議室	
ラジオ	台	10	10F 会議室	
炊き出しステーション	台	1	11F 会議室	
ダンボールベッド	個	10	12F 会議室	

備品管理表

100年企業として社会に貢献できる企業であり続けるために、行動指針となるのが『白鷺電気工業 Vision80』です。その骨格となるのが、
「① 本業を深め、広げる」「② 社内起業を促進する」「③働き方改革を実現する」「④ さらに地域と共に歩む」の4点になります。

今回は、「④ さらに地域と共に歩む」(会社周辺の清掃や清掃ボランティアに参加して、さらに地域に根ざし、地域に愛される企業をめざす)にスポットを当て、全社共通の目標として四半期ごとにPDCAサイクルを回していくことになりました。

6月25日に実施された経営計画方針会議では、各部の代表からなる48名の参加者があり、各部門から方針書の発表と質疑応答が行われました。

評価方法は、達成度によってS～Dの評価が決定し、上期・下期の総合で最終の部門評価が決定されます。



第63期 経営計画方針書

部門: SQE管理センター

作成: 平成 28年 10月 21日

15. 期別

16. 期別

17. 期別

18. 期別

19. 期別

20. 期別

21. 期別

22. 期別

23. 期別

24. 期別

25. 期別

26. 期別

27. 期別

28. 期別

29. 期別

30. 期別

31. 期別

32. 期別

33. 期別

34. 期別

35. 期別

36. 期別

37. 期別

38. 期別

39. 期別

40. 期別

41. 期別

42. 期別

43. 期別

44. 期別

45. 期別

46. 期別

47. 期別

48. 期別

49. 期別

50. 期別

51. 期別

52. 期別

53. 期別

54. 期別

55. 期別

56. 期別

57. 期別

58. 期別

59. 期別

60. 期別

61. 期別

62. 期別

63. 期別

64. 期別

65. 期別

66. 期別

67. 期別

68. 期別

69. 期別

70. 期別

71. 期別

72. 期別

73. 期別

74. 期別

75. 期別

76. 期別

77. 期別

78. 期別

79. 期別

80. 期別

81. 期別

82. 期別

83. 期別

84. 期別

85. 期別

86. 期別

87. 期別

88. 期別

89. 期別

90. 期別

91. 期別

92. 期別

93. 期別

94. 期別

95. 期別

96. 期別

97. 期別

98. 期別

99. 期別

100. 期別

101. 期別

102. 期別

103. 期別

104. 期別

105. 期別

106. 期別

107. 期別

108. 期別

109. 期別

110. 期別

111. 期別

112. 期別

113. 期別

114. 期別

115. 期別

116. 期別

117. 期別

118. 期別

119. 期別

120. 期別

121. 期別

122. 期別

123. 期別

124. 期別

125. 期別

126. 期別

127. 期別

128. 期別

129. 期別

130. 期別

131. 期別

132. 期別

133. 期別

134. 期別

135. 期別

136. 期別

137. 期別

138. 期別

139. 期別

140. 期別

141. 期別

142. 期別

143. 期別

144. 期別

145. 期別

146. 期別

147. 期別

148. 期別

149. 期別

150. 期別

151. 期別

152. 期別

153. 期別

154. 期別

155. 期別

156. 期別

157. 期別

158. 期別

159. 期別

160. 期別

161. 期別

162. 期別

163. 期別

164. 期別

165. 期別

166. 期別

167. 期別

168. 期別

169. 期別

170. 期別

171. 期別

172. 期別

173. 期別

174. 期別

175. 期別

176. 期別

177. 期別

178. 期別

179. 期別

180. 期別

181. 期別

182. 期別

183. 期別

184. 期別

185. 期別

186. 期別

187. 期別

188. 期別

189. 期別

190. 期別

191. 期別

192. 期別

193. 期別

194. 期別

195. 期別

196. 期別

197. 期別

198. 期別

199. 期別

200. 期別

201. 期別

202. 期別

203. 期別

204. 期別

205. 期別

206. 期別

207. 期別

208. 期別

209. 期別

210. 期別

211. 期別

212. 期別

213. 期別

214. 期別

215. 期別

216. 期別

217. 期別

218. 期別

219. 期別

220. 期別

221. 期別

222. 期別

223. 期別

224. 期別

225. 期別

226. 期別

227. 期別

228. 期別

229. 期別

230. 期別

231. 期別

232. 期別

233. 期別

234. 期別

235. 期別

236. 期別

237. 期別

238. 期別

239. 期別

240. 期別

241. 期別

242. 期別

243. 期別

244. 期別

245. 期別

246. 期別

247. 期別

248. 期別

249. 期別

250. 期別

251. 期別

252. 期別

253. 期別

254. 期別

255. 期別

256. 期別

257. 期別

258. 期別

259. 期別

260. 期別

261. 期別

262. 期別

263. 期別

264. 期別

265. 期別

266. 期別

267. 期別

268. 期別

269. 期別

270. 期別

271. 期別

272. 期別

273. 期別

274. 期別

275. 期別

276. 期別

277. 期別

278. 期別

279. 期別

280. 期別

281. 期別

282. 期別

283. 期別

284. 期別

285. 期別

286. 期別

287. 期別

288. 期別

289. 期別

290. 期別

291. 期別

292. 期別

293. 期別

294. 期別

295. 期別

296. 期別

297. 期別

298. 期別

299. 期別

300. 期別

301. 期別

302. 期別

303. 期別

304. 期別

305. 期別

306. 期別

307. 期別

308. 期別

309. 期別

310. 期別

311. 期別

312. 期別

313. 期別

314. 期別

315. 期別

316. 期別

317. 期別

318. 期別

319. 期別

320. 期別

321. 期別

322. 期別

323. 期別

324. 期別

325. 期別

326. 期別

327. 期別

328. 期別

329. 期別

330. 期別

発変電部



■ 2018.9.15 本社周辺清掃ボランティア

会社周辺の清掃と発電所内の草取り、周辺のゴミ拾いを実施しています。
来期も地域に根ざした活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。



実施推進者
江藤主任、志水社員

【結果】 延べ人数:86人、達成率:79.6%、評価:B

送電部



今後も各現場周辺での清掃ボランティア活動を実施し、地域住民との調和をとることで円滑な工事の進捗を図りたいと思います。



実施推進者
西村(正)課長、中村主任

【結果】 延べ人数:170人、達成率:141.7%、評価:S



■ 2019.4.20 本社～社員駐車場間清掃ボランティア

毎月1回開催される部会終了時に、実施しました。コンビニも近く、大小さまざまなゴミが落ちていましたので、毎日使う通勤路を気持ちよく通れるよう、本社～駐車場間のゴミ拾いをしました。



実施推進者
西村(拓)主任、濱田社員

【結果】 延べ人数:70人、達成率:145.8%、評価:S

電設部



■ 2018.10.21 やつしろ全国花火競技大会清掃ボランティア

10月20日に開催された「やつしろ全国花火競技大会」の翌日、早朝6時より八代市球磨川河川緑地(新萩原橋上流)の清掃ボランティアを実施しました。会場周辺には沢山の空き缶やペットボトルが落ちていましたが、手分けして元通りのきれいな状態になりました。



実施推進者
山本副長、濱田主任

【結果】 延べ人数:56人、達成率:116.7%、評価:S

営業部



■ 2019.2.16 くまもと・マイリバー・サポート事業

作業後にきれいになった様子を見ると河川環境の改善に貢献していると実感します。今後も定期的に行うことで河川の美化・維持に努めていきます。

＊くまもと・マイリバー・サポート事業
熊本県は、河川の美化活動の普及と河川の美化に対する意識の高揚を図ることを目的に、河川において、ボランティア団体が行う清掃、除草、植栽等の美化活動を支援する事業を実施しています。



実施推進者
岩下社員

【結果】 延べ人数:13人、達成率:108.3%、評価:S

管理本部



■ 2018.12.2 「ニッセイ熊本の森」育樹ボランティア

気持ちの良い気候の中、「ニッセイ熊本の森」育樹ボランティアに参加しました。(所在地:熊本市北区貢町 小萩国有林)
弊社以外にも多数の県内企業も参加され、総勢173名という大所帯でのボランティアで、ヒノキエリアを中心に枝で混み入った森を見通しの良い森にする作業(枝打ち)を行いました。



実施推進者
井上社員

【結果】 延べ人数:43、達成率:119.4%、評価:S



■ 2018.10.13 旧社屋周辺清掃ボランティア

午前中に南阿蘇下草刈りボランティアがあり、その後旧社屋周辺の清掃ボランティアを実施しました。供合線沿道は、それほどゴミはありませんでしたが、高速道路沿は、非常にゴミが散乱していた。



実施推進者
奥主任、眞田主任

【結果】 延べ人数:17人、達成率:106.3%、評価:S

安全品質環境管理センター



■ 2019.2.17「熊本城マラソン2019」ボランティア

今年で8回目となる「熊本城マラソン2019」のボランティアに14名で参加しました。ボランティアは初めての参加でしたが、飽田中学校周辺の沿道整理と、たくさんのランナーへの応援を通して、「熊本地震からの復興を後押しする大会」のサポートをすることが出来ました。半日以上時間を要しましたが、来年も是非参加したいと思います。



実施推進者
谷本主任

【結果】 延べ人数:29人、達成率:80.6%、評価:B

取組と評価

第63期(2018年7月～2019年6月) ボランティア実績

部 門	人 数	第1四半期 (7～9月)	第2四半期 (10～12月)	第3四半期 (1～3月)	第4四半期 (4～6月)	第63期 計	目標(1人4件)		評価	順位
							目標	達成率		
発電電部	27	21	24	20	21	86	108	79.6	B	8
送電部	30	69	35	17	49	170	120	141.7	S	2
情報通信部	12	18	21	23	8	70	48	145.8	S	1
電設部	12	2	24	7	23	56	48	116.7	S	4
営業部	3	2	5	6	0	13	12	108.3	S	5
管理本部	9	2	19	6	16	43	36	119.4	S	3
イノベーション経営企画室	4	0	7	6	4	17	16	106.3	S	6
安全品質環境管理センター	9	0	11	10	8	29	36	80.6	B	7
	106	114	146	95	129	484	424	114.2	S	



結果: 1位 情報通信部 145.8%、2位 送電部 141.7%、3位 管理本部 119.4%となり、会社全体の達成率は、114.2%でした。

今期初めて「さらに地域と共に歩む」という目標を掲げ、社内外のボランティアに参加しました。

ボランティアは、主体的に、周囲の人と協力しながら社会に貢献していく活動で、またイベントに参加することで、「誰かのためになる」「多くの人と出会える」というメリットがあります。今後も自主的に進んで活動していきたいと思っています。

2018.8.30 熊本県森林吸収量認証書交付



熊本県庁で熊本県森林吸収量認証書交付式が開催され、平成29年度分の森林整備活動によって吸収された二酸化炭素量の認証書、「熊本県森林吸収量認証書」が交付されました。

2018.10.12 平成30年度「ブライト企業」認証書交付



くまもと県民交流館パレアテトリアくまもとビル10階パレアホールにおいて、平成30年度「ブライト企業」認定証交付式が執り行われました。平成28年2月に「ブライト企業」に認定され、今回、継続で認定を受けました。

2018.11.14 EA21環境活動レポート大賞・九州 表彰式



福岡市にて「第11回EA21環境活動レポート大賞・九州」の表彰式が実施され、当社は「選考委員会特別賞」を受賞しました。

2018.11.27 「グッドキャリア企業アワード2018」



「グッドキャリア企業アワード2018」において「イノベーション賞」(厚生労働省人材開発統括官表彰)を受賞し、2018年11月27日「時事通信ホール」(東京都中央区)にて表彰式に参加。

2019.1.30「平成30年度省エネ大賞」



平成30年度省エネ大賞において、「平成30年度省エネ大賞 省エネ事例部門 省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。新社屋建設に伴ったZEB化の取組み「地中熱利用と直流配電等による既築ビルのZEB化推進」が同部門で評価をいただきました。

2019.2.20 「第22回環境コミュニケーション大賞」



第22回「環境コミュニケーション大賞」表彰式が開催され、第22回環境コミュニケーション大賞 環境経営レポート部門 優良賞(第22回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞)が、二保安全品質環境管理センター長へ授与されました。

2012年初刊から2019年までの「環境活動レポート」

認証・登録番号 0008443 認証登録日 2012年6月26日



第56期 2012年7月初刊



第57期 2014年4月発行
第7回「環境活動レポート大賞・九州」
エネルギー部門賞 受賞



第58期 2015年3月発行



第59期 2015年12月発行
第9回「環境活動レポート大賞・九州」
九州地方環境事務所長特別賞 受賞
第20回「環境コミュニケーション大賞」
優良賞 受賞



第60期 2017年5月発行
第10回「環境活動レポート大賞・九州」
大賞 受賞



第61期 2017年12月発行
第11回「環境活動レポート大賞・九州」
選考委員会特別賞 受賞
第22回「環境コミュニケーション大賞」
優良賞 受賞



第62期 2018年12月発行
第12回「環境活動レポート大賞・九州」
九州地方環境事務所長特別賞 受賞



第63期 2019年11月発行

次年度の環境経営目標及び環境経営計画 2019年度【第64期】

環境経営目標

区 分	項 目	基準年	3年間の目標		
		2018年実績	2019年目標	2020年目標	2021年目標
二酸化炭素排出量の削減		250,647 kg-CO ₂	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			248,141kg-CO ₂	245,634kg-CO ₂	243,128kg-CO ₂
	電力の削減	147,393kWh	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			145,919kWh	144,445kWh	142,971kWh
	ガソリンの削減	46,705ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			46,238ℓ	45,771ℓ	45,304ℓ
	軽油の削減	19,433ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			19,239ℓ	19,044ℓ	18,850ℓ
	灯油の削減	1,530ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			1,515ℓ	1,499ℓ	1,484ℓ
一般廃棄物 排出量	一般廃棄物削減 (リサイクル率向上)	10,324kg	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			10,221kg	10,118kg	10,014kg
産業廃棄物 排出量	産業廃棄物削減 (リサイクル率向上)	13,095kg	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			12,964kg	12,833kg	12,702kg
水使用量	水使用量 の削減	750m ³	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			743m ³	735m ³	728m ³
グリーン購入	グリーン購入 の推進	4件	基準年の1種類増加	基準年の2種類増加	基準年の3種類増加
			5件	6件	7件
環境に配慮し た事業活動	社会への啓発 活動の推進	イベント参加 (1人当り) 4件/年	イベント参加 (1人当り) 4件/年	イベント参加 (1人当り) 4件/年	イベント参加 (1人当り) 4件/年
化学物質の 管理	化学物質の 適切な管理	管理状況の確認	管理状況の確認	管理状況の確認	管理状況の確認
		1回/四半期	1回/四半期	1回/四半期	1回/四半期

(注記) 1. 電気の二酸化炭素排出係数は2018年度九州電力の実排出係数0.347kg-CO₂/kWhを使用する。
 2. 化学物質の管理においては、塗料・シンナー・高圧絶縁油などにおいて内容・性質などの把握及びSDSに沿っての適切な取扱と管理の実施を行う。

(目標の設定)

2018年2月に本社が移転したことによって延床面積が大きく変わりました。
 そのため電気使用量については目標達成率が57.8%、また本社ではストーブを使用しなくなったので灯油の使用量が減少した等の理由から、基準を2018年実績とし3年間(2019年～2021年)の中期計画を立てました。

設定した目標に対して状況変化等が生じた場合は、必要に応じて見直し実施したいと思います。

項 目	取組内容	担当部門	SDGs
省エネルギー	・省エネ、省コスト製品の提案及び導入の促進 ・空調の適温化の徹底 ・照明は、昼休み等不必要な時は消灯する ・空調を必要な区域に限定して使用	全部門	 
資源	・両面印刷及びコピーの徹底 ・ホワイトボードやプロジェクター、電子媒体の利用でペーパーレス化 ・データベース等の利用で文書の電子化 ・使用済み封筒の再利用	全部門	
廃棄物	・廃棄物管理票(マニフェスト)をもとに適正な処理をする ・3R(Reduce・Reuse・Recycle)の促進 ・分別回収ボックスの適正配置でゴミ分別の徹底	全部門	
大気	・温室効果ガス排出量の削減 ・エコドライブの推進	全部門	 
水	・使用量の削減 ・下水道などの排水管理 ・日常的な節水の励行、トイレ用水の節約	全部門	
化学物質	・使用量の低減 ・種類・使用量・保管場所等を記録・管理する ・MSDSによる管理 ・環境にやさしい製品の使用促進	現業部門	  
生物多様性	・自然環境との調和に配慮する	全部門	 
グリーン購入	・環境に配慮した物品などの購入 ・社用車は、ハイブリッド車や低燃費車、電気自動車への切り替えに取組む	全部門	
雇用	・研修制度 ・働き方改革の推進	全部門	 
社会・地域	・地域に役立つ社会貢献として熊本城と八代城跡の清掃活動、植林地の下草刈りを実施 ・環境法規性の遵守を行い、景観・騒音・振動・悪臭・緑化に配慮する ・防災・環境教育を実施する	全部門	   

環境関連法規への確認及び評価、違反・訴訟

環境法規制の遵守活動を行い、その遵守状況の評価を行った結果、環境法規制への違反はありませんでした。
環境法規制の遵守活動を通して、関係当局よりの違反等の指摘はありませんでした。
周辺住民からの環境苦情、訴訟についてもありませんでした。

法 規 制 等	遵 守 事 項(法規制/自主規制)	遵守評価
家電リサイクル法、PCリサイクル法	・リサイクル料支払い(発生時のみ)・廃棄時の適正処置(発生時のみ)	○
自動車リサイクル法	・リサイクル料支払い(発生時のみ)・廃棄時の適正処置(発生時のみ)	○
フロン排出抑制法	・廃棄時の適正処置(発生時のみ)・処理委託書提出、処理報告書の受理 ・特定施設の自主点検の実施	○
建設リサイクル法	・工事に係る分別、再資源化の実施・再資源化完了の書面報告 ・対象工事の7日前までの市町村長への届出	○
騒音規制法	・知事へ7日前までに届出(指定区域周囲80m) ・作業敷地境界にて85デシベル以下・空調機(本社・支社)の届出	○
振動規制法	・知事へ7日前までに届出(指定区域周囲80m)・作業敷地境界にて75デシベル以下	○
廃棄物処理法	・産業廃棄物の保管 ・委託契約書(5年間保存) ・マニフェスト伝票管理(5年間保存)・産業廃棄物管理表交付、状況報告 ・産業廃棄物の運搬(運搬車への表示・マニフェスト伝票の携帯)	○
消防法	・市町村条例で定める(指定数量の1/5以上、指定数量未満の場合、あらかじめ届出)	○
建設汚泥の再生利用に関するガイドライン等	・適切な調査、設計、施工及び管理を行う・リサイクルの結果を確認し、記録を保存	—
オフロード法	・特定特殊自動車排出ガスの規制	—
悪臭防止法	・塗料等を使用する場合の作業量や時間帯の検討	—
PRTR法	・排出量、移動量の把握、届出	—
水質汚濁防止法	・知事に60日前までに届出・測定を実施(記録の保存3年間)	○
下水道法	・公共下水道管理者にあらかじめ届出・生活環境項目については、条例による	○
毒物及び劇物取締法	・ケトンその他化学物質の表示、保管	○
地下水保全条例	・ポンプ(本社)の届出	○
浄化槽法	・定期点検、法定点検の実施	○

ごあいさつ

白鷺電気工業は昭和22年の創業以来、九州電力様と共に便利で快適な暮らしを支える、電気・電力に関するインフラの整備に力を注いでまいりました。

創業から70余年の間に、電気の活用の幅は大きく広がりました。海を越えた遠い国の人と瞬時に繋がるのも、宇宙にいる飛行士の今を知ること、世界の人々がインターネットを通して魅了される感動のコンサートも、不治の病と言われた難病を直す薬の開発も、全ては電気エネルギーが広げた未来の姿でした。

そして電気エネルギーは低炭素社会に向けて、子どもたちと未来の子どもたちのために、ますます大切なエネルギーであり続けます。

無限の可能性を持つ子どもたちのために、白鷺電気工業はこれからも、子どもたちがワクワク、ドキドキする夢ある未来を、電気エネルギーと共に創造してまいります。

2019年6月

代表者による全体の評価と見直しの結果

新本社に移転して一年が経過し、ようやく1年間の環境データを取得することが出来ました。今後どのように削減していくかが、大きな取組みと思います。BEMSによって取得したデータを用いて環境負荷(二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量など)を分析して、EA21推進委員会によってPDCAを回しながら進めていきたいと思っています。

■ 環境経営方針について

2015年9月に国連で採択されたSDGs (Sustainable Development Goals ー持続可能な開発目標ー)を追加するために、現在環境経営方針の見直しを図っているところです。2019年7月には、改訂版を周知出来るようにしてください。

■ 環境経営目標及び環境経営計画について

目標については2018年の実績をもとに作成しましたが、必要に応じて見直しを行ってください。

■ 実施体制について

実施体制については、見直しの必要はありませんが、EA21推進委員会を更に活性化させ、全社一丸となった取組みを行ってください。

白鷺電気工業株式会社
代表取締役社長 沼田 幸広





Shirasagidenki